

38th Concert

Concertino di Kyoto

コンチェルティノー・ディ・キョウト第38回演奏会



1996 12/22 日曜日 7:00PM
京都府立文化芸術会館

主催 / 才能教育研究会京都支部

■ごあいさつ

新井 覚

私どもの演奏会にお越し頂きまして有難うございます。

才能教育研究会京都支部では教育の一環として弦楽合奏科にABCと3クラスを設けており、コンチェルティーノ・ディ・キョウトはそのAクラスの名前です。結成されて38年目になりましたが、メンバーの在籍期間は平均4～5年程度であり、「社会人として巣立ってゆく、他府県の大学への進学、結婚」等これまでに随分多数の交代がありました。毎年少しずつベテランが抜け、新しいメンバーが入団しますのでレベルの維持が大変です。

今回は本会教育部の講師であり世界的に活動しておられる小林武史氏を独奏者にお迎えしました。皆様方に楽しんで頂きますと同時にメンバーにもその素晴らしい音楽センスを与えて下さるものと思っております。

■ヴァイオリン独奏

小林 武史

略 歴

- 1931 スマトラで生まれる。
- 1941 鈴木鎮一氏に師事。
- 1949 第18回毎日音楽コンクール ヴァイオリン部門第1位。
- 1955 東京交響楽団のコンサートマスターに就任。
- 1960 日本音楽舞踊批評家クラブ賞受賞。
- 1961 チェコスロヴァキア国立ブルノー・フィルハーモニーのコンサートマスターに迎えられ渡欧。
- 1964 オーストリア リンツ州立ブルックナー交響楽団のコンサートマスターに就任。
- 1967 読売日本交響楽団（読響）のコンサートマスターに就任。
- 1971 読響の音楽監督を就任、退団。



以後毎年、海外に演奏旅行。北米、南米、ヨーロッパ、中近東、アジア全域。
 「プラハの春」国際音楽祭、ミュンヘン国際音楽祭など、各国の著名な音楽祭にも招待され、国際交流基金音楽使節としての派遣は9回に及ぶ。
 1988年度文化庁芸術祭参加ヴァイオリンリサイタルに於いて芸術祭賞を受賞。
 コレギウム・ムジクム・東京 主宰。
 宮城県 中新田バッハホール音楽院院長。
 中華人民共和国 武漢市音楽学校客員教授。
 著書に「ヴァイオリンー挺世界独り歩き」

☆近況

昨年4月、朝鮮民主主義人民共和国の「四月の春、親善芸術フェスティバル」に参加。演奏、指導を行う。
 10月、パリ、アムステルダムでリサイタル。
 11月、国際交流基金の派遣により、ブラジル各地に於いて1ヵ月半に亘り、演奏、指導を行う。
 本年5月、ドイツ各地でリサイタル。

プログラム

クリスマス協奏曲 ト短調 作品6 第8番 コレルリ
Vivace-Grave
Allegro
Adagio-Allegro-Adagio
Vivace
Allegro
Pastorale(Largo)

合奏協奏曲 変ロ長調 作品3 第2番 ヘンデル
Vivace
Largo
Allegro
Minuetto(Allegro)
Gavotta(Andante)

b b b b b 休憩 # # # # #

ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 モーツァルト
 ヴァイオリン 小林武史
Allegro
Adagio
Rondo(Allegro)

シャコンヌ ニ短調 バッハ～ニールセン

コンチェルティーノ・ディ・キョウト

指揮 新井 覚

ヴァイオリン	畑 亜季	・	大塚 真帆	・	久保田達也
	大塚 真衣	・	菊池 理	・	沢田知栄子
	井上 史	・	田中めぐみ	・	山本 佳奈
	松川 朋子	・	寺田 茉耶	・	安居佑季子
ヴィオラ	江村 孝哉	・	松村裕美子	・	江村美由紀
	仲佐 悦子				
チェロ	森田 健二	・	壁瀬 雅彦	・	里上 直衛
コントラバス	森田 昭				
チェンバロ	宮澤 悦子				
オーボエ	石川 由夏	#	小川 隆子	#	
ホルン	清水 直行	#	福井 慎也	#	
フルート	坂井 満美	・	小原 絵里		

= 客員

■曲目紹介

本日は、前半に、バロック時代の合奏協奏曲2曲、後半にモーツァルトのヴァイオリン協奏曲とニールセンによって弦楽版に編曲されたバッハのシャコンヌを演奏いたします。

合奏協奏曲は当時の室内楽の典型であった「トリオソナタ」を母胎として生まれたバロック時代の協奏曲です。ヴァイオリン2つに、鍵盤楽器を含む低音部からなる室内楽（トリオソナタ）を芯にとおして、フォルテの欲しい部分では、これに合奏部をつけ加えました。ですから合奏部はソロと対抗することはなく、伴奏付きトリオソナタといった趣です。

コレルリは17世紀の末から18世紀の初めにかけて活躍した、イタリアの偉大なヴァイオリン音楽家です。多くの弟子を育てて、ヨーロッパ全土に大きな影響を及ぼしましたが、彼自身は、演奏家としても作曲家としても、決して革命的な改革者ではなく、むしろアカデミックな手堅さを身上とする保守的な音楽家でした。コレルリのOp. 6は合奏協奏曲集で、全部で12曲あります。今夜はその中の、8番目の曲を演奏します。この曲は、コレルリ自身が「キリスト降誕の夜のために作られた fatto per la notte di Natale」と記しているように、クリスマスの真夜中のミサのために書かれた曲です。終楽章には、パストラールが加えられています。キリスト降誕に際して、田園の牧童が笛を吹いたという言い伝えにもとづいて、イタリアでは、クリスマスの朝に近郊から集まった羊飼いたちがピッフェロと呼ばれるバグパイプでシチリア舞曲を吹きながら、クリスマスを祝いました。そのようなことからパストラールは、シチリア舞曲のリズムを持ち、クリスマスの音楽に加えられるようになりました。

ヘンデルは、コレルリよりも少し後の1685年、ドイツに生まれ、主にイギリスで活躍した、バロック音楽の最後の大家です。彼のOp. 3合奏協奏曲集は、ヴィヴァルディやコレルリの流れをひいて、イタリア的な様式で書かれていますが、彼らのものにくらべて、構成その他でかなり自由に書かれています。今夜演奏します第2番は、5楽章制の曲で、最後にガボットに変奏を続けた楽章をおいています。

モーツァルトは、19歳の頃に、ヴァイオリン協奏曲を5曲書きました。当時の「音楽会」は声楽家や器楽奏者個人の腕が披露される場であり、オーケストラは陰の存在で、まだほとんど鑑賞の対象外とされていました。音楽会の最初と終わりにはシンフォニーが奏されます。これはオペラの序曲と同じ役目をしました。つまり幕が上がるまでの気分つなぎです。シンフォニーが終わると、声楽家が出て得意の歌を歌うのが本来の音楽会で、そうした声楽家の合間に評判の器楽奏者が「声楽に負けないほど魅力的に」楽器を弾いてみせたり（協奏曲）即興演奏をしたりしていました。したがって当時の協奏曲とは「演奏会用アリア」のライバルとして生まれ、成長しました。この第3番は、第4番と第5番とともによく演奏されるものです。

バッハのシャコンヌは、1720年頃に作曲された無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番の終曲です。ゆっくりの4分の3拍子で、256小節という長大な舞曲です。音楽的にも非常に充実感のある曲です。この曲はあまりにも立派なので、ブゾーニやブラームスによってピアノ曲にも編曲されました。今夜は、ニールセンによって2本のヴァイオリンとヴィオラ、チェロそれぞれ1人を伴う弦楽合奏の為に編曲されたものを演奏いたします。編成が大きくなって、一層ぶ厚くなったシャコンヌの響きをお楽しみ下さい。

Violin
Bow
Strings



マツヲ弦楽社

京都市上京区河原町通丸太町下ル東側
マツヲビル 4F ☎602 ☎075-251-1774



華麗なひびき……

世界の銘器を常時、
多数在庫いたしております。
お買い求めは、
ご来店のうえご相談下さい。

BUNKYO GAKKI



MFG.
CO.
LTD.

〒112 東京都文京区小石川2-1-11 電話03(3811)2084(代) FAX03(3818)5253

